

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700055		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家梅津(1)		
所在地	京都市右京区梅津石灘町11番		
自己評価作成日	令和2年7月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたたかく・楽しく」というホーム独自の理念を大事にし、家と同じような生活が継続していけるように努めています。施設としての質の高いケアを提供するため、施設内での介護技術研修などの各種教育研修を実施、家庭のような温かいケアを提供するために一人一人にしっかりと寄り添ったケアが行えるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2690700055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2690700055-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年8月26日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は昨年、職員間で理念の見直しを行ない話し合いを重ね「いま(その日、その瞬間)を大切に」という事業所独自の理念を作成し、利用者がマイペースで楽しく暮らせるようその日、その瞬間を大切に支援しています。また、地域との交流を大切にしており、地藏盆等地域の行事に利用者と一緒に参加したり、学童保育児童が事業所を訪れ歌や踊りの披露してくれたり、和太鼓やカラオケ、ハワイアン等のボランティアの来訪もあり、和太鼓の演奏会の際は近隣の方に案内し参加を得るなど地域との関わりが広がっています。運営推進会議には地域や多くの家族の参加を得ており、活発に意見交換を行い、そこで得た意見から学童保育児童の訪問による歌や踊りの披露や職員の顔写真、名前の掲載を行うなど意見をサービスの向上や運営等に活かしています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	従来の「あたたかく・楽しく」という理念を職員が共有しながら、再度事業所独自の理念を作成し、グループホームの特性である柔軟な対応を進めています。	昨年度、職員間で理念の見直しを行い「今(その日、その瞬間)を大切に」という事業所独自の理念を作成し事務所に掲示すると共に新任入職時に説明を行い意識付けをしています。利用者がマイペースで暮らせる日々を大切に地域に支えられながらみんなが家族のように一緒に暮らせるような支援に心がけ月毎の会議の中で振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学童との交流を持ち、施設内での行事を開催している	自治会の方から地域の情報をもらい地蔵盆等の地域行事に利用者と一緒に参加したり散歩時には会った方と挨拶を交わすようにしています。学童保育の児童が事業所を訪れ歌や踊りの披露をしてくれたり、和太鼓やカラオケ、ハワイアン等のボランティアの来訪もあり、和太鼓の演奏時には地域の方に案内し参加を得るなど地域との関りが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所主体のイベントを開催し、ホームに足を運んで頂ける機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催であがった議題や情報を活かしサービスの向上に努めています。	会議は多数の家族や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て2か月に1回開催しています。利用者の状況や対応策を含む事故報告、行事案内報告のあと意見交換を行い、事故報告についてはアドバイスをもらうこともあります。職員の名前を知りたいという要望を得て掲示板に顔写真と名前を記載する等意見を反映させています。コロナ禍では職員のみで行い書面にて報告をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修、連絡会は積極的に参加し必要に応じて訪問しています。また、それらで得た情報を必要に応じて家族様に提供しています。	運営推進会議の議事録提出や事故報告等で窓口を訪問しています。書類の手続きや制度上等で疑問のある際は電話にて聞いています。行政職員の参加するサービス事業者連絡会や研修会にはできる限り参加し協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束の対象となる入居者様はいませんが、必要、やむを得ない場合は、医療・職員と入念なカンファレンスを行い、ご家族への説明・同意を得たうえで、適切な手順を踏み、職員にもその手順や適切な方法が理解できるように研修などを重ねています。	年2回法人主催の身体拘束に関する研修を受講し伝達をしたり事業所でも他事業所の事例を基に話し合う事もあります。現在、安全な見守りを行うためセンサーマットを使用している利用者もおり必要性等については随時検討しています。不適切な対応が見られた場合は管理者が注意をしています。玄関は開錠していますがフローア出入口は施錠しており、外に行く利用者には職員が見守りながら散歩等に出かけています。	

グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修、カンファレンスにて虐待についての理解を深め、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて理解を深め、必要に応じて支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又や改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約においては説明に十分な時間を設け、納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時や運営推進会議、アンケート等にて意見要望を把握し運営に反映しています。	家族の意見や要望は年1回のアンケート調査や運営推進会議、面会時、電話等で聞いています。利用者個々に対する要望が多く介護計画等に繋がったり、体を動かす機会を増やしてほしいとの要望については日課として体操を行っていることを伝え、アンケート調査結果については家族に報告をしています。利用者からの要望は日々の関わりの中で聞いており外に出たいという要望については散歩に出かけたり、食べたいものを出前で取る等、都度対応するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中、毎朝の朝礼、フロア会議、全体会議にて意見や提案を吸収し運営に反映しています。	職員の意見や提案は月1回のフロア会議や全体会議、朝礼時、日々の業務の中で聞いています。会議に出られない職員については事前に口頭やメモにて意見を聞いており、シャワーチェアの購入や勤務時間帯の見直し等、物品購入や業務改善に繋がっています。年2回の個別面談や随時の面談でも要望を聞いたり相談できる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度や段位認定制度などの人事考課制度に基づき、職員の努力や実績を把握し給与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社での入社時の研修、フォローアップ研修や事業所でのOJTを通してトレーニングや能力の把握を行っている。又、社内外の研修に参加できる機会を設けています。		

グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都市内の当社グループの事業を始め、ケアマネの連絡会、他施設見学会を通し同業者と交流を持つ機会を図っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、安心して頂けるようなコミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況、不安な事を確認し関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済面、病歴等、今の現状に対しどのようなサービスが必要か、ご本人、ご家族との話し合い、満足できるサービスを受ける事ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業、レクリエーション、家事の手伝い等を通しなじみの関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、介護職員でカンファレンスを行い介護計画を作成し実地しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス等、継続できるものはホームでも継続しています。又、以前住んでいた家の近隣の方や職場の方の訪問もあります。	職員と一緒に自宅近くをドライブしたり、葬儀に参列することもあります。家族の協力を得ながら墓参りや法事等に出かける際はスムーズに外出できるよう日程調整や身支度、薬等の準備をしています。親戚や同僚の面会時には居室に案内し椅子やお茶の用意をしてゆっくりしてもらえよう配慮したり、知人からの電話を取り次ぐなど、今までの関係継続の支援に努めています。	

グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で関係性を把握し、食事席、外出時のグループ分け等に反映しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関りが必要な場合は、相談や支援を行っていきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺うことが困難な場合でも、表情や仕草を観察し、本人本位のケアを検討している。	入居前の面談で自宅等本人が住んでいる場所に出向き、本人や家族から生活歴や意向、趣味等を聞きケアマネージャーからの情報も含めてフェイスシートに記載し意向の把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中で聞き、意思疎通の難しい方については家族から聞いたり表情や様子から汲み取り、職員が気づいたこと等連絡ノートや介護記録に記載しカンファレンスで本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族様、入居者様との日々のコミュニケーションを通し、現在の状況、不安な事を確認し関係作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、アセスメント、往診、訪問看護を通じて心身の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向を把握し必要に応じてカンファレンスを行い介護計画に反映しています。	介護計画の見直しは1年毎に行い、職員の意見を聞きながら6か月毎にモニタリングと評価を行っています。見直しの際は包括的自立支援プログラムによるケアチェック表で再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し事前に本人や家族の意向を聞き、必要に応じて往診時に聞いた医師の意見や看護師の意見を反映し現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、アセスメントシートを利用して介護計画の見直しに活かしています。		

グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の状況に応じ、柔軟に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、多くの選択技を入居者様の方々に提供できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を選択する事ができ、協力医との連携状況を説明し決めてもらっています。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを説明し、全利用者が月2回往診のある協力医に変更しています。24時間連絡可能となっており体調に変化が生じた場合には直接連絡をして随時の往診や支持を仰いでいます。専門医への受診は家族が対応し、必要に応じて職員が対応することもあり受診結果については口頭にて共有しています。訪問歯科は週1回希望や必要に応じて受けており、訪問マッサージについては随時希望者が受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問日には、看護師に入居者様の状態を報告し、必要に応じて処置方法や受審などのアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、ご家族様との連携をとり現状把握、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応に係る指針について説明し同意を得ています。重度化した場合には医師と家族様とホームで話し合いを重ね、個々にあった対応をしています。	入居時に看取り指針について説明し意向を聞いています。重度化した場合はその都度意向を確認し、医師、家族、職員の三者で話し合いを重ね看取りの方針を決めています。清潔に心がけ口を湿らしたりその時にできる支援を行い、家族の頻回な面会も得ながら看取り支援を行っています。年1回の法人研修を受けると共に、終了後はその都度フロア会議で振り返っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応や初期対応についてはカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践できるようにしています。		

グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施しています。そのうち1回は夜間想定で実施しています。訓練時は消防職員の方々に立ち会って頂いています。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜間想定で通報、消火器の使用方法、利用者の参加も得て避難誘導の訓練を行い、終了後署員からアドバイスももらっています。運営推進会議で訓練の案内や報告を行うと共に、地域の防災マップ説明会に参加したことがあります。飲料水や乾パン、かゆ等を2～3日分備蓄しており簡易トイレ等も準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様の今までの生活状況を把握し、人格を尊重しながら親しみを持てるようなコミュニケーションをしています。	年1回法人主催の接遇に関する研修を受けた職員が資料を基に伝達し理解を深めています。基本は丁寧語ですが利用者の人格を尊重し、思いを汲み取りながらその時々に合わせて対応をしています。呼称は苗字で呼び声のトーンにも配慮しています。不適切な言葉かけがあれば管理者が都度注意しており、羞恥心を伴う介助時は希望があれば同性介助に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を取り入れ、自己決定の難しい方は日常的なケアの中で思いを汲み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者様のコミュニケーションを通じて、できる限り要望に応えることができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様から要望があれば訪問理美容を利用し、その人らしい服装等身だしなみができるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じて食事準備、後片付けをスタッフと共に行っています。入居者様のリクエストに答えたメニューにすることもあります。	朝食は事業所で作り、昼・夕食については業者から主菜のみ冷凍で届いたものを温めて提供し、他のメニューについては食材が届き事業所で作っています。利用者には盛り付け等できることに携わってもらい職員の検食者と同じテーブルを囲み一緒に食事を摂っています。レストランへ外出に出かけたり、寿司を取るなど楽しみのある食事も取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は記録に残し、好みの飲み物、食事等を把握し提供しています。		

グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、必要に応じて訪問歯科を受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々の状況に合わせた時間で声掛けや誘導を行っています。	日中は立位が可能であればトイレでの排泄が基本としており、全利用者の排泄記録から排泄パターンを把握し、その時々表情や仕草を見逃さず個々の状況に合わせてトイレへの声かけや誘導を行っています。退院後は元の状態に戻るよう支援を行い、個々の利用者に適した排泄用品や支援方法についてはフロアー会議や日々の業務の中で随時話し合っており、業者に相談することもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、内服薬頼らない排便コントロールを心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が二人以上いる11時～16時までの間で希望に合わせて入浴できるように支援しています。	入浴は週に2回日中に支援し、湯は一人ずつ交換をしています。ゆず風呂をしたり、入浴剤を使用しながら変化のある入浴支援を行い、シャンプーやリンス等好みのものを持参している利用者もいます。拒否のある場合は時間や職員を変更する等無理のないよう入浴に繋げており、職員と一対一で会話を楽しみながらゆっくりと入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間は特に決めておらず、個々の生活習慣に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個々のファイルにて管理しており、副作用に注意しなければならない内服薬に関しては、連絡ノートを使用し注意を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、家事等それぞれの状況に応じた支援を行っている。		



グループホームたのしい家梅津(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて外出を行っている。又、地域の行事等に参加する機会をもてるようにしている。	気候の良いときは散歩や買い物、地域の行事等に出かけています。敷地内で外気浴をしたり、一緒にゴミ出しや新聞を取りに行くなど外気に触れる機会を作るようにしています。初詣や桜の花見、紅葉見学等季節毎に外出したり、野鳥園や個別でドライブ等に出かけることもあります。少しでも外出の機会が増えるよう個別外出についても検討中です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じ、お小遣いを管理し喫茶店や買い物等に使う機会を持てるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手な配色は避け、なるべく落ち着いた環境で過ごして頂けるよう配慮しています。又、季節に応じた物も飾っています。	家族が持参した生花を活けたり、正月飾りや雛飾り、七夕飾り等季節毎に利用者と一緒に作成し季節感を味わってもらっています。毎日換気や掃除を行い清潔保持に努め、温湿度計や空調、利用者の体感等に留意しながら温湿度管理を行っています。テーブル席については利用者同士の相性等により変更し、廊下やリビング等にソファや椅子などを置きそれぞれの利用者が思い思いの場所でゆっくりと過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを2つ別々の場所に配置し、個別のスペースを持てるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様、ご本人と相談し、以前の生活環境に近づけるよう使い慣れた家具をもって来ていただき、落ち着いて暮らせる居室作りをしています。	入居時に使い慣れたものを持って来てもらうように伝えテーブルや椅子、タンス、テレビ等を持参し家族と相談しながら配置し、入居後動線等を考慮し変更することもあります。好きな芸能人の写真集や家族の写真、ぬいぐるみ、自作の写真立て、趣味の本等もそばに置きその人らしい居室となっています。毎日可能な利用者で換気や掃除を行い快適に過ごせるよう配慮しています。希望により布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく簡単に様々なものを使用する事ができるよう配慮しています。		